

立野ダム建設事業の検証に係る検討  
「放流孔の閉塞対策について」

平成 24 年 10 月

国土交通省 九州地方整備局

はじめに

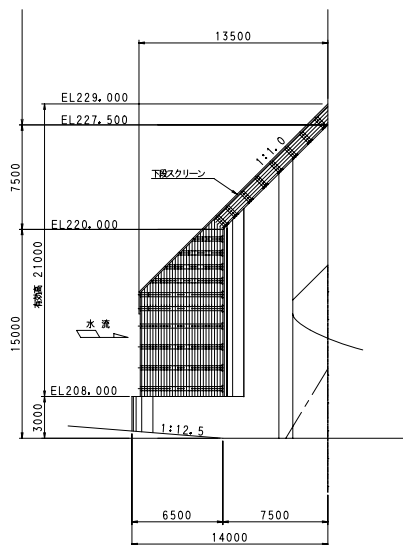
「放流孔の閉塞対策について」は、平成 22 年 9 月から臨時的にかつ一斉に行うダム事業の再評価を実施するに当たり、これまでに九州地方整備局が行ってきた調査及び検討結果を現時点においてとりまとめたものである。

立野ダムでは、放流孔の閉塞対策として、現時点では、他ダムの事例等を参考に以下のような施設を想定している。

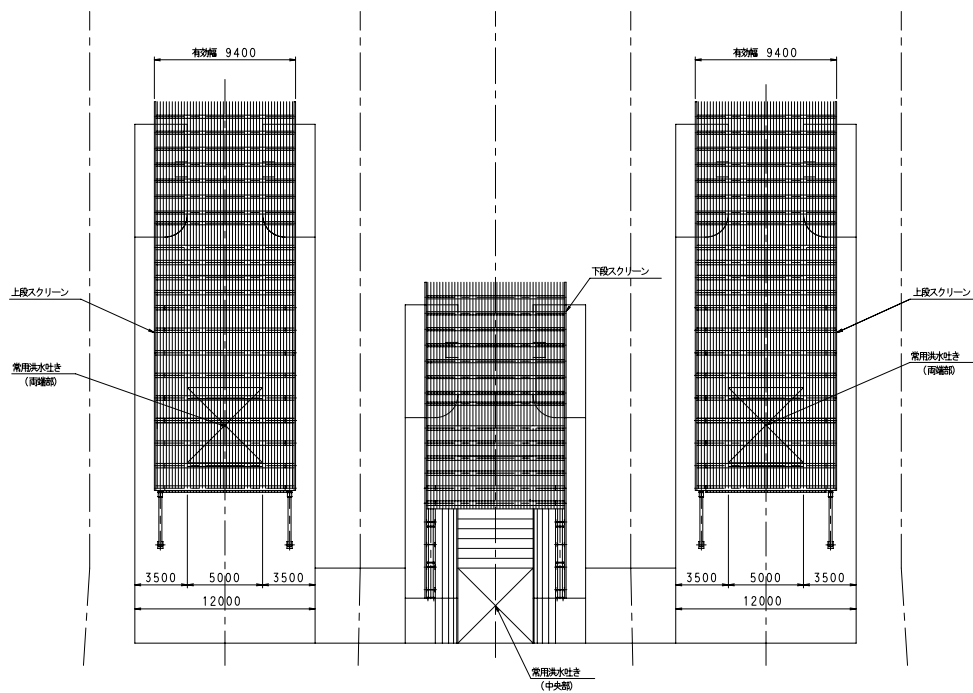
(1) 放流孔呑口部スクリーン

立野ダムでは、流木等によって放流孔を閉塞させないために、呑口部にスクリーンの設置を計画している。

現時点で想定しているスクリーンの構造を以下に示す。



スクリーン横断面図

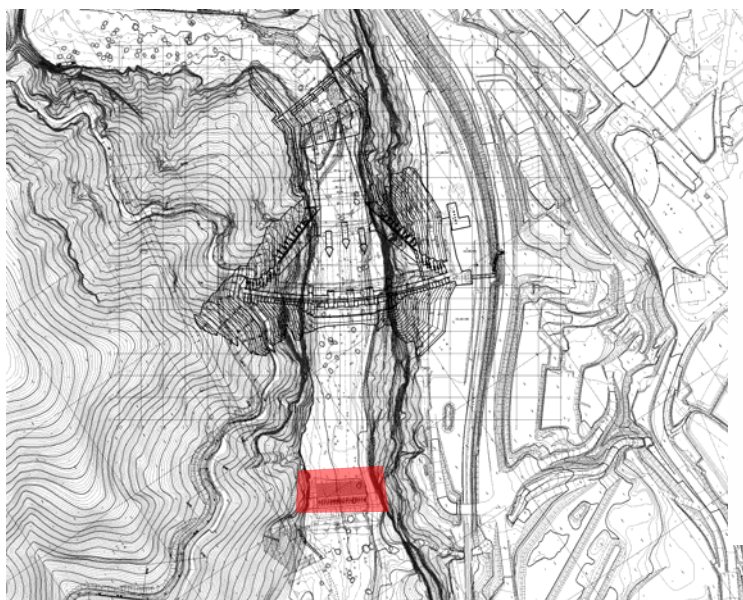


スクリーン縦断面図

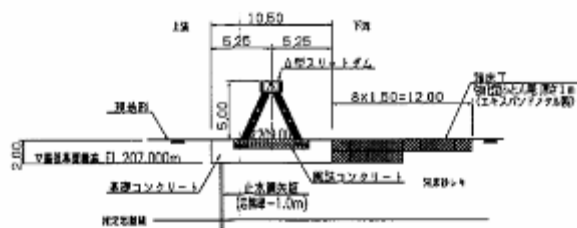
(2) スリットダム

立野ダムでは、さらなる安全対策として、立野ダム建設予定地上流に、流木等を捕捉できる施設としてスリットダムの設置を計画している。

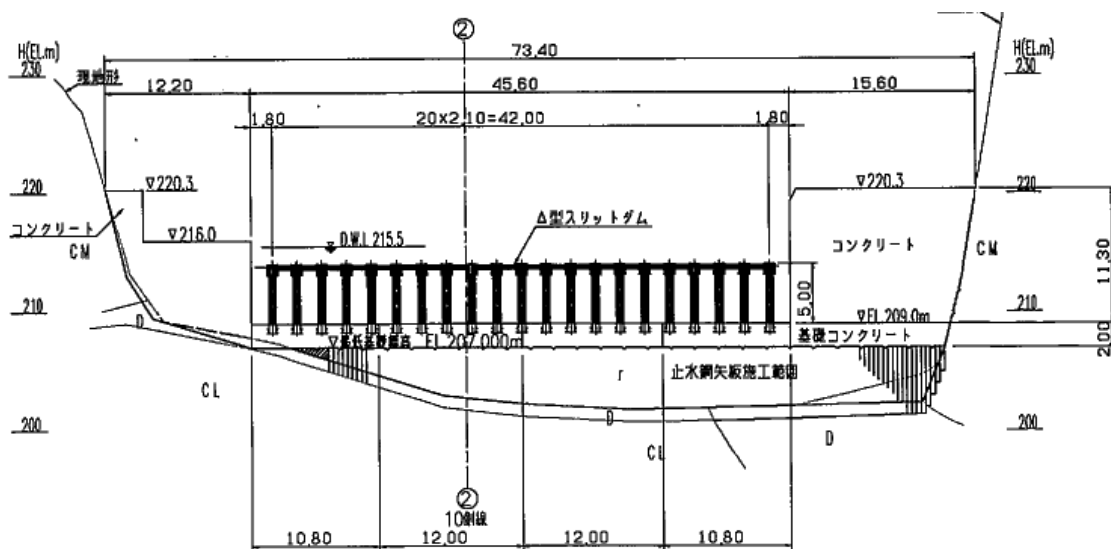
現時点で想定しているスリット（透過型）ダムの構造を以下に示す。



平面図

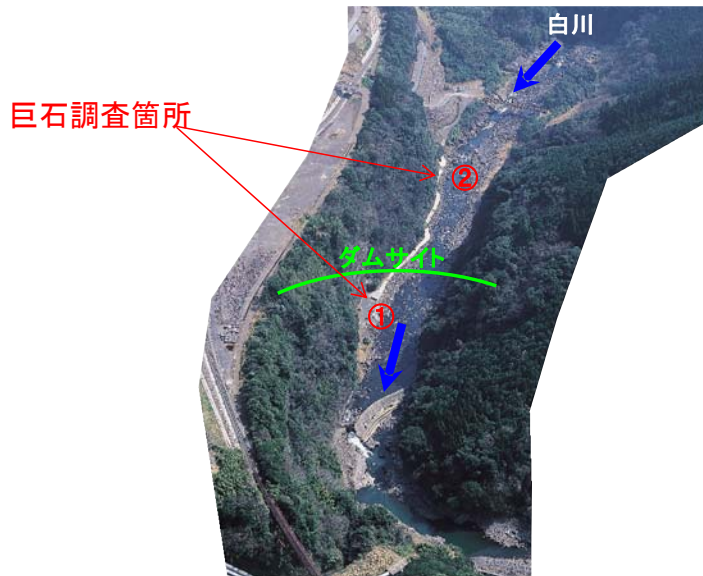


スリットダム横断面図



スリットダム縦断面図

立野ダム周辺の巨石の移動状況について昭和53年度より経年調査を実施しているが、立野ダムサイト付近の2つの巨石については、平成24年7月九州北部豪雨の洪水も含め、これまでの洪水によって移動していないことを確認している。



巨石①(概ね 幅5m×高さ4m×奥行き2m)	巨石②(概ね幅6m×高さ5m×奥行き3m)
<p data-bbox="512 1357 596 1384">S53撮影</p>	<p data-bbox="948 1357 1032 1384">S53撮影</p>
<p data-bbox="483 1700 630 1727">H23.10.11撮影</p>	<p data-bbox="919 1700 1066 1727">H23.10.11撮影</p>
<p data-bbox="488 2022 625 2049">H24.8.15撮影</p>	<p data-bbox="930 2022 1054 2049">H24.8.6撮影</p>